

## 6. 研修生のページ

### BTC 研修修了者にみる最近の若者の就労事情

軽種馬育成調教センター 技術普及課 教育係長 齋藤 昭浩

#### はじめに

BTCでは平成4年から「強い馬づくり」を念頭に、即戦力となる育成調教技術者を養成し20年が経過します。修了者も404名を数え、多くの者が現在も馬産地で活躍しているところです。一方、現在の馬産地では人材不足が深刻な状況で、競馬産業への新規就労希望者の一つとして、BTC研修の応募者数の推移をみても、10年前には年間150名程の応募がありましたが、ここ数年は40名程度と減少しています。さらに、修了者の牧場への定着率も少しずつ減少傾向にあります。このような現状では少ない人材を取り合うのは必然であり、そうなると少しでも就労条件の良い牧場に人材が集まる結果となるでしょう。

一方で、一部の牧場経営者から「技術の乏しい者に高い給料・福利厚生は提示できない」、「生き物を扱う以上、休日は少なくても当たり前」、「若い従業員が短期間で入れ替わってくれた方が人件費は上昇せずに助かる」との声を聞くことがありますが、そのような考え方では、定着どころか人材を確保することすら望めない状況なのです。

そこで今回、研修修了者の意見を参考に、「近年の若者が就職する牧場の傾向」や「定着率の高い牧場の傾向」についてまとめてみました。軽種馬生産牧場及び育成牧場(以下牧場)の皆様にご一読いただき、競馬サークルの活性化につながれば幸いです。

#### 牧場への就職活動の状況

多くの牧場の皆様から求人とお問い合わせをいただきますが、研修生に対して例年12月より就職活動の指導を行っています。同時にハローワークへの登録と希望される牧場による説明会の受付も開始します。BTCでは個々の研修生に対して就労の斡旋は行わないため、研修生は各自で就職活動を行います。

牧場への就職活動では、皆それぞれの目標と期待を胸に、自身の希望する条件と合致する就職先を探しますが、条件はだいたい表1から選んでいるようです。

就職活動を行う研修生は、一部の者を除いてハローワークに登録します。ハローワークからの求人票を参考に表1の～について、ある程度自分の希望する条件と付け合わせて判断します。求人票の資格や備考欄に「BTC・JBBAR研修生歓迎」と記載されていると応募しやすいようです。

とについては、研修カリキュラムの中で実施している牧場見学や牧場実習等を参考にしています。特に、牧場実習では従業員と長時間一緒に過ごすことから、一つ一つの発言が印象に残ります。見学や実習終了の後には、同級生と情報を交換して参考にしています。また、BTC研修を修了した先輩からの情報収集や紹介なども参考にしているようです。

表 1 牧場就職の条件

仕事内容	騎乗調教、育成、コンサイナー、生産。
待遇	給与、休日、勤務時間。
福利厚生	社会保険、寮・社宅の完備、通勤手当、賄いの食事。
経営方針	牧場代表者の経営方針や育成に共感できる。
職場の雰囲気	従業員の雰囲気が良い。 BTCを修了した先輩がいる。
ブランド、ネームバリュー	近年有名な活躍馬を輩出した。 あこがれ

### 最近の修了者の就職先の特徴

本年の4月に修了した研修生21名を対象に、就職活動についてのアンケート調査を実施しました。アンケート結果から表2に就職活動にあたっての「重視する条件」を示しました。

表 2 就職にあたり重視する条件 優先順位 3位まで

	1位	2位	3位	1~3位計
給与	5	7	2	14
休日	5	3	4	12
社会保険の加入	4	4	9	17
牧場の経営方針	3	0	2	5
仕事内容	3	0	0	3
勤務時間	1	1	2	4
職場の雰囲気	0	2	2	4
寮社宅の完備	0	1	0	1
賄い食事	0	1	0	1

#### 「給与」

1位は「休日」と同数でしたが、3位まで含めると「給与」を選択した者が若干多く、就職活動の中で最も重視している項目となります。「給与」は高ければそれに越したことはありませんが、牧場の経営方針と個々の技能によるものです。

#### 「休日」

希望では月に4日~7日ですが、皆が牧場の仕事を十分理解しており、「週に1日は欲しい。」というのが本音です。「固定」「当番制」の希望はほぼ半数ずつで、若干「固定」を希望する者が多くいました。

#### 「社会保険」

1位~3位までの合計では、最も多くの17名が重要視していました。労働災害保険と雇用保険は当然として、健康保険と厚生年金は牧場が任意適用事業者であっても、加入しているか否かが大きなポイントとなっています。近年、社会保険問題が新聞やテレビで大きく取り上げられるようになり、皆が将来のために意

識している結果が反映しているようです。

#### 「牧場の経営方針」

3位までの優先順位にはなかったものの、表3のとおり半数の者が重視しており、重視する者からは「人も馬もどちらも大切にする牧場」、「人を大切にする所」、「馬に対する考え方」、「馬を大切にしているか」、「オーナーブリーダー牧場」、「就職して考え方が違うと対立するから」との意見が挙げられていました。

#### 「職場の雰囲気」

これも3位までの優先順位にはありませんでしたが、圧倒的に重視する者が多く、「どちらでもない」者からも「先輩が長く勤めていると心強い」との回答がありました。

#### 「仕事内容」

重要視していない訳ではありませんが、第29期の研修生は全員が騎乗を伴う育成調教を行う牧場に就職し、過去の修了者も9割以上が同様の傾向でした。

#### 「寮社宅の完備」「賄いの食事」

今回の統計ではさほど重要視されていないように見えますが、寮と賄いの食事はほぼ全ての牧場で提供されていたので、優先順位の3位までに入らなただけで、重要な項目であることは間違いありません。多くの研修生が「一人暮らしの経験がないので不安」ということと、本人のみならず「両親が食事について心配している」という意見もありました。

永年にわたり研修生の就職活動を見ていますが、以前は「馬の取り扱い技能や騎乗技術を向上できること」、「多くの馬に騎乗できる」といった仕事の内容や、「職場の雰囲気」、「BTCの先輩がいるので安心」ということを重視していました。

今でもおそらく各牧場の採用担当者の方は、面接ではこのような回答を良く聞かれているのではないのでしょうか。しかし、近年の若者は冷静に待遇を分析し、条件等を優先して就職先を選ぶ傾向にあると思われます。

表3 就職にあたり重視する事柄

	「牧場の経営方針」	「職場の雰囲気」	「ブランド、ネームバリュー」
重視する	11	19	5
重視しない	5	0	9
どちらでもない	5	2	7

## おわりに

今回、最近の若い研修修了者の就労に関する特徴と傾向に焦点をあてて調べてみました。雇用保険データによると、社会全体では就職後3年以内に離職している者の割合は、中卒で約7割、高卒で約5割、大卒で約3割に達しています。BTCの研修修了後の就労状況を調べてみますと、3年4期(第25~28期)の65名中54名が引き続き就労しており、離職率は17%です(平成23年8月現在)。

雇用者側も牧場へ就労した人材をいかに定着させ、さらに戦力となる人材育成をこれまで以上に推進し

ていくことが必要と思われます

牧場への新規就労者増加を目的に。競走馬育成協会を中心として当軽種馬育成調教センター、日本中央競馬会、日本軽種馬協会、日本競走馬協会が牧場就業促進事務局を立ち上げて活動を行っています。求人活動は年間を通じてBOKUJOBサイトで受け付けると共に、毎年7月には東京競馬場において牧場フェアを開催していますので、是非ご活用下さい。

